

保護者の皆様へ

平成26年度

# 宇治支援学校が大切にしたいこと

保護者のみなさん、地域みなさんに支えられ、宇治支援学校は開校から4年目を迎えています。

本校の教育目標は、「自律 ～生活に生きるすべを学ぶ～」です。これは子どもたち一人一人が、学校にいる間に精一杯自分でできることを増やし、卒業後にこの宇治市・城陽市で、必要な支援を受けながら自分の持てる力を100%発揮して、よりよく暮らし、働くための意欲や力をはぐくむことを意味しています。

本校の教育理念「喜びはともにあること」のとおり、今後とも保護者のみなさんとともに、子どもたちの成長・発達を願いながら歩み続けたいと思います。

## 平成25年度の実践研究から

本校では、「地域学習」をテーマに教育の充実をめざし、学校づくりを進めてきました。

本校における「地域学習」とは、地域社会と協働した授業のことです。地域の人とかかわり、生活の幅を広げ、子どもたちがよりよく暮らすための学習です。教室内・学校内の活動から地域に出向いた活動まで、人とかかわりをおして、子どもたち自身が存在価値を高め、主体的に地域の人にかかわることから、確かな自立と社会参加につながることをめざしています。



小学部

「からだで感じて  
友達とつながる」



中学部

「仲間と協力して  
ゲーム屋を開こう」



高等部

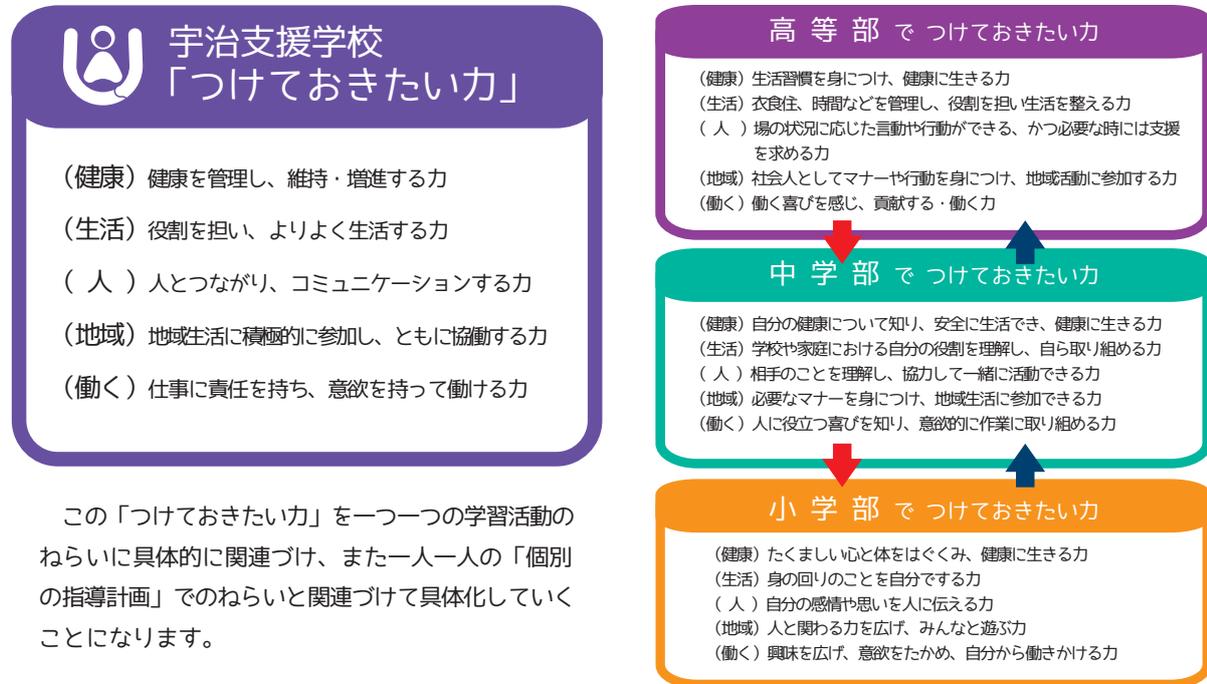
「音楽会に向けて  
見通しをもって取り組もう」

※「つかえる事例集（宇治支援学校平成26年3月発行）」から  
本校ホームページからご覧いただけます。

# 「つけておきたい力」について

子どもたちの将来の自立の姿は一人一人によって異なります。本校では、小学部のころから「どんな生活をして欲しい」「どんな仕事がしたい」といった具体的な将来の自立の姿を保護者のみなさんと一緒に考え、そのために今つけておきたい力を「個別の指導計画」の中に明記し、指導を行っています。そしてまた、個別懇談等の機会に保護者のみなさんといっしょに評価や次の目標を確認し、学校と保護者が同じ目線で子どもをはぐくんでいけるようにと考えています。

こうした考えを、「つけておきたい力」として、学校全体と学部ごとに整理をしています。



この「つけておきたい力」を一つ一つの学習活動のねらいに具体的に関連づけ、また一人一人の「個別の指導計画」でのねらいと関連づけて具体化していくこととなります。

## 本校独自の指導の形態

# 「基礎的な学習の時間」を設置

学習によって得た知識や技能が断片的にならず、実際の生活の場で応用され、成功経験を積み重ね、主体的に活動に取り組む意欲を育てていくことが大切です。そのため本校では、将来の望ましい社会参加や日常生活や社会生活に必要な技能や習慣を身につけることをめざし、生活に結びついた具体的な活動を学習活動の中心に据えた、実際の状況での学習を進めています。個々の課題に沿った多様な生活経験をとおして、日々の生活の質が高まることをめざしています。また、指導においては、できる限り児童生徒の成功経験を豊富にするとともに、自発的・自主的な活動を大切に、主体的活動を促すようにしています。

本校では、子どもたちの障害の状態等に合わせた指導を進めるため、各教科、道徳、特別活動及び自立活動を合わせて指導（以下、「各教科等を合わせた指導」という。）することを大切にしています。指導の形態として、日常生活の指導、遊びの指導、生活単元学習、作業学習に加えて、今年度から「基礎的な学習の時間」を設定しています。



「基礎的な学習の時間」の内容として、以下の3点で取り組みます。

- ・基礎的・基本的な学力（国語、算数など）
- ・健康づくり、基礎的・基本的な体力づくりに関するもの
- ・社会性の獲得、コミュニケーション能力の向上に関するもの



# 「基礎的な学習の時間」について



**Q** 読み、書き、計算などの勉強はするのですか？

**A** 「基礎的な学習の時間」では、各教科の基礎的・基本的な学力であるひらがな、漢字、数、時計などの内容に取り組みます。そして、他の学習や生活場面の中で活用し、使える力（生きる力）として身につけることをめざします。

**Q** すべての子どもたちが取り組むのですか？  
どんな内容を、どんな形で取り組むのですか？

**A** 基本的にはすべての子どもたちが対象です。その時期に身につけておきたい基礎的・基本的な各教科等の内容に取り組みます。また、子どもたちの障害の状態や発達の段階等によっては、自立活動の内容も含まれます。具体的には、絵本を楽しむ、読み、書き、計算、体力づくりやストレッチ、意思伝達やソーシャルスキルトレーニングなどに取り組みます。  
実際の授業では、その時々課題に応じて、学級や必要な集団を組んだり、あるいは個別に取り組みます。



### コラム1 特別支援学校での教科とは

小・中・高等学校の教科（国語・算数等）の内容とは異なります。  
特別支援学校には特別支援学校学習指導要領があり、年齢や発達の段階を考慮して、各教科の目標や内容が定められています。

### コラム2 自立活動とは

特別支援学校の教育課程には、小・中・高等学校にはない「自立活動」という特別な領域があります。  
一人一人の障害に視点を当て、自立をめざし、子どもたちが学習や生活をしやすくするために取り組むものです。  
自立活動の内容には、「健康の保持」「心理的な安定」「人間関係の形成」「環境の把握」「身体の動き」「コミュニケーション」の区分があります。



**Q** 「基礎的な学習の時間」は他の学習と関係あるのですか？

**A** 下図は生活単元学習を例に、「基礎的な学習の時間」の内容と要素となる教科等を示しています。日常生活の指導、遊びの指導、生活単元学習、作業学習等の内容と関連づけることにより、子どもたちが主体的に活動に取り組む意欲を育て、生活で使える力を身につけます。

学習内容	「基礎的な学習の時間」での内容	要素となる教科等
単元の道のりシートづくり カタログ、チラシ看板、ポップづくり 販売製品の袋詰め、販売練習	日課やカレンダーの学習 ひらがなの簡単な語句の書写 初歩的な数量の処理や必要に応じて計算機を使つての計算	国語、数学 国語 数学
高等部の先輩へのインタビュー 仲間との接客練習・販売会	基本的な会話の練習	国語、職業・家庭・自立活動



# 「喜びはともにあること」

私達は一人で生きていくことはできません。まわりの人達と支え合いながら生きています。たくさんの人達に包まれ、夢を持ち、将来を展望しつつたくさんの人達とつながり合い、支え合い、助け合って生きることが自立ということでもあると考えます。

そうした自立と社会参加をめざして、今年度も子どもたちと次のような目標を設けました。

## ①「元気に学校へ来よう」

手洗いをしたり、体を動かし、健康で元気な体を作っていこう。

## ②「元気にあいさつをしよう」

「おはようございます」「こんにちは」「ありがとうございます」といったあいさつを元気にしよう。

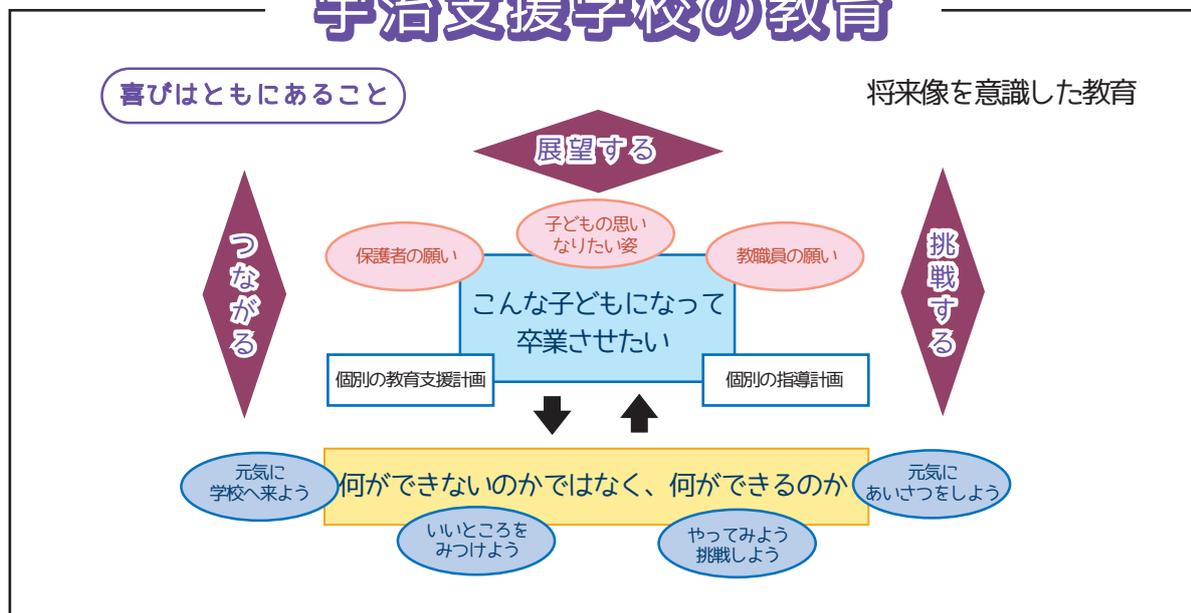
## ③「いいところを見つけよう」

友達のいいところ、自分のいいところをたくさん見つけよう。いいところを見つけるとみんなを好きになり、友達をいじめたりすることがなくなるよ。

## ④「やってみよう 挑戦しよう」

できるかな?と思うことでも、友達や先生に手伝ってもらってもいいので思い切ってやってみよう。いろいろなことに参加したり、挑戦しよう。

## 宇治支援学校の教育



今年度も継続して文部科学省事業「平成26年度特別支援教育に関する実践研究充実事業」の指定を受けることとなりました。この事業に取り組むことをとおして、子どもたちが自己実現をめざし、よりよく生き、生きがいのある生活を展望できる教育を創造していきたいと考えます。

今年度のまとめとして、平成27年2月13日（金）の学校公開日に報告会を行い、保護者のみなさん、地域のみなさんとともに子どもたちの姿をとおして今年度の到達点を共有したいと思っています。当日は特別ダイヤ（13:30下校）としますが、できれば午後からも保護者のみなさまにも参加いただきたいと思います。